臺灣日日新報 (日曜金) 昭和十八年一月一日 (明治卅一年九月五日第三種郵便物認可) (第二種)

132595

臺灣昌新報

宮中・輝く新春の御儀
聖上 寶祚の無窮御祈念

米英屈服最後の日へ
戰力を增強 勝ち抜く
年頭の辭 東條首相兼陸相

戰力增強 一點に集中
一億、決戰に必勝誓ふ

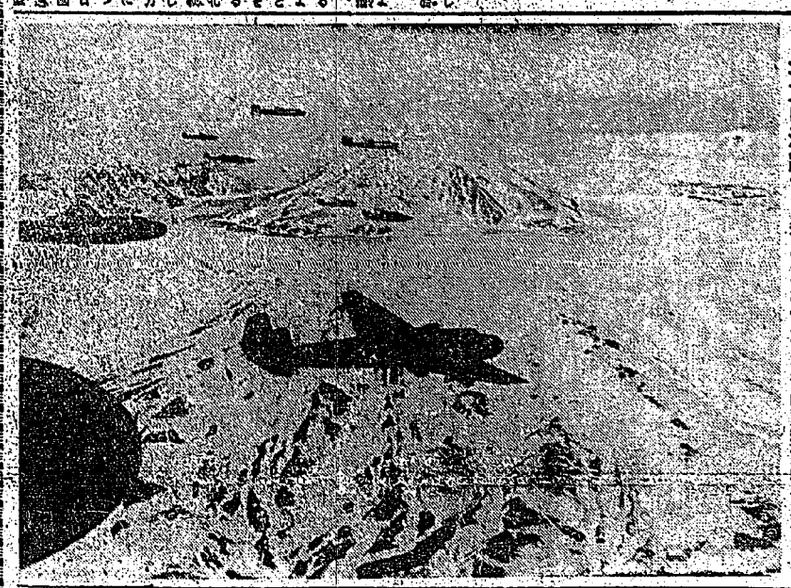
新國民運動の重心
同生共死の精神
汪國府主席年頭の談話

執拗の敵米英を擊滅
帝國海軍大戰果の相貌

擊沈合計十萬餘噸
アゾレス周邊 獨潛艦大戰果
合計五、百七十七隻

ジブラルタルに
反樞軸軍集結待機

ロメル軍積極攻勢
米軍苦戰



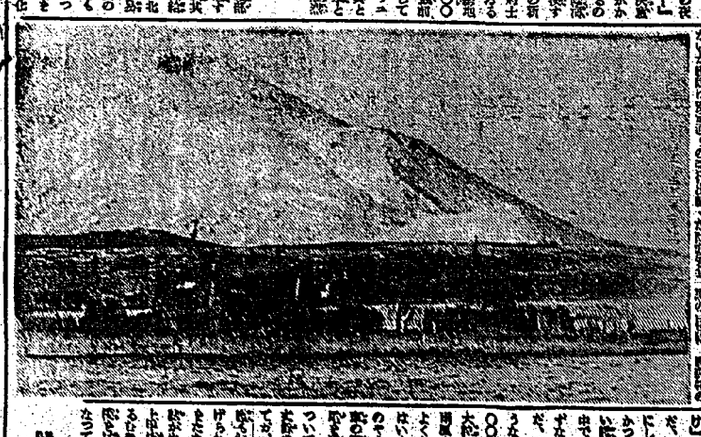
昭和十八年一月一日（金曜日）　新日本新聞　第一万五千三百八十四號

大東亞戰爭下 畏し 天皇陛下の御精勵

玉體御健かに 寶算四十二

竹の園生の御榮え 億兆擧つて御慶祝

嚴たり北洋の護り 魔海超えて熱田島へ



宮内大臣謹話

出撃

決戰第二年

皇國の民光榮の年
戰力の增強に全力

年頭所感　長谷川臺灣總督

寶祚益〻隆し

紀元二六〇二年

必勝を誓ふ

勝ち抜く一點に歸一
暴虐敵米英を屈服

高木馬公警備府司令長官談

一刻の偸安を許さず
百年長期戰に勝抜く

臺灣軍報道部長　藤岡武雄

奉公運動の飛躍實踐

皇奉・長谷川總裁談

銃後と銃後との戰

農林大臣　井野碩哉

總力戰の戰士として
秘密戰への防衛徹底

石田臺灣憲兵隊司令官

不動産金融
日本勸業銀行
臺北・中臺・南臺・高雄

國威宣揚
2603

東洋產業株式會社　南海興業株式會社　南方セメント工業株式會社　盆興炭礦株式會社
社長　山內卓郎
臺北市本町四丁目　杉原產業株式會社
臺北市表町二丁目廿二番地(表町ビル內)　東橫產業株式會社　電話二七五一番

臺北市上埠頭　高砂麥酒株式會社
臺灣鐵鋼製品統制株式會社　臺北市大和町一丁目一番地
臺北州消費米配給組合
謹賀新春　大東亞戰爭第二年ノ春ヲ迎ヘ必勝ノ信念ヲ堅持シツヽ國家公ノ爲メ奉仕ノ誠ヲ盡サンコトヲ期ス　昭和十八年一月一日　臺北州廳內　臺北市米穀配給組合

臺北市大和町一ノ一　臺灣歯科醫師會
臺北市大和町一ノ一　臺灣歯科醫師會國領館內　臺北州歯科醫師會
臺北市本町三丁目一番地　臺灣バルブ聯合會　電話九五五六番

臺北市北門町八番地　大倉商事株式會社臺北支店
本社　臺北市榮町參丁目壹番地　電話八一〇一番　臺灣棉花株式會社　嘉義工場　嘉義市竹園子二三七　臺東工場　臺東街臺東北町一四
本社　臺北市老松町二ノ六　營業所　門司、神戸、大阪、名古屋、東京、出張所　南興公司　社長　加藤恭平　專務　奧村文市

臺北州臺北市上埠頭一三九番地　臺北州自動車運輸會社
臺北市太平町三丁目八十四番地　臺灣茶輸移出統制株式會社　電話五八四七・七四二五・九三六一
臺北鐵道ホテル　經營者　臺南鐵道ホテル　福島鳶　臺北驛構內食堂　臺北市表町

日本郵船株式會社　臺北支店　村三雄
臺北市大和町三ノ一　臺灣金物株式會社　電話三九〇八番
臺北市旭町二丁目八番地　昭五二〇番　臺灣製帽株式會社

臺北州基隆市濱町五十三番地　日本水產株式會社臺灣營業所
日本通運株式會社　基隆支店
株式會社國際運輸　基隆支店　支店長代理　山下幸一郎
基隆市旭町二丁目五十番地　內外運輸株式會社

畏し一視同仁の聖旨

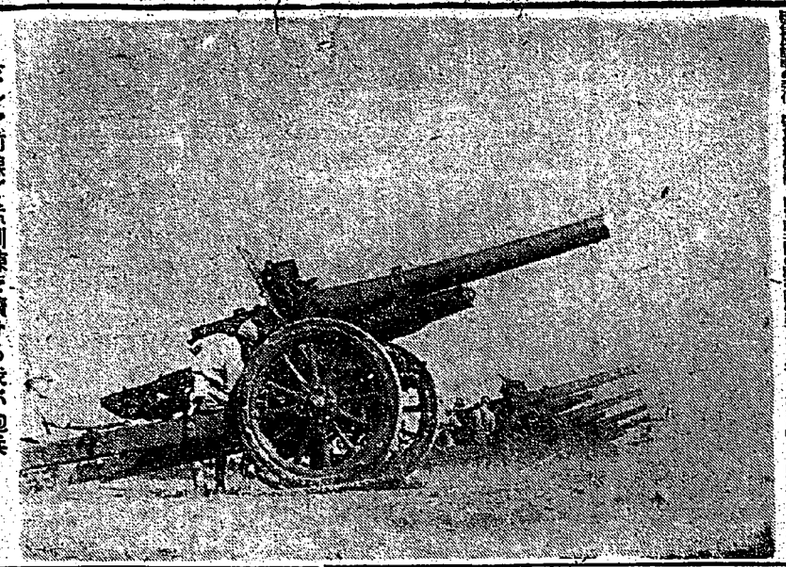
皇民錬成の劃期的躍進

臺灣初等教育の展望

本島人就學率八割五分

形式的就學に陷るな

本制度の趣旨達成に父兄の協力切望



ビルマ前線で猛訓練を續ける我が砲兵

長期戰と翼贊道確立

翼贊會調査局長　鹿島守之助

大東亞の文化建設

長谷川如是閑

同生同死へ邁進

激刺・國府の新國民運動

謹賀新年
買げ！億鐵石心
昭和二十六百三年

大東亞戰爭と共に
南方資源深く廣く開發
戰力を增強創造力發揮

新文化創造の曉鐘
利己的帝國主義を打倒

銅と棉の重點化
新生比島の產業と貿易

水田が耕地の九割
日本の協力で國力躍進

資源の能力見現
本島人と技術提携
(4) 日佛印間國防協同態勢の必然化

國家總動員

決戦へ六百万総進軍！

更に進まん皇民の道

戰場精神で御奉公
皇奉 山本事務總長談

今年こそ国運を賭して大東亜戦争の完遂に邁進しなければならぬ年であります、又同時に最大の力を発揮しなければならぬ年であります、その決意の下に、大東亜戦争に関する一般万般の事柄を皇軍第一主義のものにしてゆきたいと思います、それについては先ず第一に皇軍の御苦労を体しかつ感謝の念を深めることと共に、天皇陛下の御稜威に対し心より感激感謝の誠を捧げなければなりません、又皇軍将兵の殉なられた英霊と護国の神々に対しては、その御冥福を祈ると共に、その遺志を体して、あくまで大東亜戦争の目的は一日も早く完遂しなければならないと思ひます、

次に国民一般に対しては、今年こそ一億一心、総力を挙げて国家に奉公し、この戦争に勝ち抜くことが、国民一人一人の最大の責務であることを自覚して、一億国民が皆戦士であるの覚悟を以て

淨闇の神前に續く

節折大祓の御儀
引續き除夜祭の御儀

【皇居發】大晦日の下賜の御祓として大祓の天祝詞に謳ふ昭和十七年中の罪穢の祓ひ、大祓並に除夜祭の御儀は三十一日午後四時から宮中三殿に於いて生嘉納侍従長代理として祭典を終へられ引續き三殿に於いて除夜祭の御儀が行はれ次に昭和十七年を送る全國民の御儀として歌会始の儀が行はれた

天皇陛下には本日御小祓を受けさせられて午後一時御出門あらせられ三殿參拜に引續き午後三時から大祓並に除夜祭の御儀に臨ませられた　次いで賢所御神楽の儀にあらせられ午後四時から大祓の御儀が執り行はれ最後に天皇陛下には皇后陛下と共に御拝あらせられた

戰捷祈願赤子の群
榮光輝く昭和十八年迎ふ

大東亜戦第二年目の新年、榮光輝く昭和十八年の元旦は晴れた朝日を浴びて明けた、おはやくも初日を拝しに宮城前廣場の隅々まで埋めつくされもひ、二重の御祓所にもみ込むばかりの

幸福

と国運隆昌の祈念を胸に刻しつゝ二十一日午前零時過ぎから二重橋前廣場に参集するための新しい歩みを起さねばならない、我々はこの歴史的な日の元旦を迎へることの出来た幸福を感謝し、かつ大東亜戦争完遂の聖業に向ひ大いなる決意と力とを新たにしなければならない、皇居の正月の神事は前日の大祓に始まり、歳旦祭、四方拝、小祭、三殿、神嘉殿、賢所、皇霊殿、神殿の順序で行はれるが、午前零時過ぎから二重橋前廣場に参集した人々は、この神事の模様を拝することは出来ないが、それだけに一層厳粛な気持で、宮城の森深く鳴り響く除夜の鐘の音を聞きながら、遥かに皇居の方を遙拝して、今年の正月は先づ第一に戦捷祈願に明け暮れた、今年の正月は先づ第一に戦捷祈願に明け暮れた、今年の正月は先づ第一に戦捷祈願に明け暮れた

農は天下の大本なり

臺北帝大總長　安藤正次

昭和十八年の歳旦の詔書は「農は天下の大本なり」と御言葉を出されたが、大農國の日本、生産擴充、食糧增産の時節、生産擴充、食糧增産の時節、生産擴充、食糧增産の時節